

第 25 回北海道肉牛研究会大会
第 58 回肉用牛研究会北海道大会
共同シンポジウム(オンライン開催)資料

和牛の育種改良と 全国和牛能力共進会の役割



日時:2021 年 11 月 9 日(火)13:30~17:00

場所:酪農学園大学(オンライン発信元)

主催:北海道肉牛研究会

第 58 回肉用牛研究会北海道大会実行委員会

後援:北海道・北海道和牛振興協議会・酪農学園大学

第 25 回北海道肉牛研究会大会・第 58 回肉用牛研究会北海道大会 共同シンポジウム(オンライン開催) 「和牛の育種改良と全国和牛能力共進会の役割」

開催趣旨

和牛では平成初めに育種価による改良手法が実用化され、育種価に基づき優れた種雄牛や雌牛が選抜されることにより、脂肪交雑など産肉能力の遺伝的改良が急速に進みました。あわせて飼養管理技術の向上とともに、高品質な牛肉の安定供給に寄与しています。最近ではゲノム育種価評価が県単位や全国レベルで進められるようになり、改良のさらなるスピードアップが期待されています。

いっぽう、5年に1回開催され「和牛のオリンピック」とも称される全国和牛能力共進会は、昭和41年の第1回以来その時代に合った開催テーマを定めて実施され、地域ごとの改良の成果を競い合う場として機能してきました。来年の第12回全共鹿児島大会は「和牛新時代 地域かがやく和牛力」とのテーマのもと開催され、新しい時代にふさわしい新しい価値観の醸成をねらいとしています。このため、牛肉の美味しさに関係する「脂肪の質」については、育種価体制の構築により、脂肪の質の改良につなげることを目的とした肉牛の部も設けられています。

北海道では、生産者・関係者の誘致活動が実を結び、昨年11月に第13回全国和牛能力共進会北海道大会の開催(2027年)が決定されました。全共北海道大会を契機として北海道の和牛振興や北海道和牛の全国へのアピールに向けて、生産者・関係者が奮闘しているところです。

今回のシンポジウムでは、全国和牛登録協会・向井会長より「全共が和牛改良に果たす役割」と題した基調講演をいただきます。続いて、北海道や地域での和牛改良と全共への取組みやゲノム育種技術に関する話題提供を受けて、今後の和牛の育種改良と全国和牛能力共進会の役割について議論を深めます。

シンポジウム日程 11月9日(火) 13:30 ~ 17:00

基調講演	全共が和牛改良に果たす役割 — 和牛は1日にしてならず — 全国和牛登録協会 向井文雄 氏	13:30 ~ 14:30
話題提供1	第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けた取組み 北海道酪農畜産協会 岸 大輔 氏	14:30 ~ 15:00
	休憩	15:00 ~ 15:15
話題提供2	「えぞ但馬牛」造成の歴史と肉牛振興の取組み JA道央酪農畜産販売課 林 寛峰 氏	15:15 ~ 15:45
話題提供3	ゲノム育種技術による北海道和牛の改良 道総研畜産試験場 鹿島聖志 氏	15:45 ~ 16:15
総合討論 (コーディネーター)	道総研畜産試験場 宝寄山裕直 氏	16:15 ~ 17:00